

アスナビ100名就職記念シンポジウム

4月20日開催

アスナビ5年間の軌跡と 今後のアスリートと 企業を考える



経済同友会が2010年より協力している日本オリンピック委員会(JOC)のトップ・アスリートのための就職支援ナビゲーション「アスナビ」。採用実績が100人を突破した記念として、味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて、「アスナビ5年間の軌跡と今後のアスリートと企業を考える」と題したシンポジウムが開催された。

挨拶

最初に日本オリンピック委員会の竹田恒和会長が、「アスナビは、アスリートと企業が相互にWin-Winの関係を築くことができる有意義なマッチングだ。100人の採用を目指してきたが、6年目を迎えた今年3月に、75社103人の採用が決定した」とこれまでの実績を紹介した。また、今後について「経済同友会をはじめ、関係者の皆さまと横断的関係をさらに深めたい。アスリートには、練習環境の充実だけでなく経済面でも安心を与える必要がある。その点でアスナビにご協力いただく企業には大いに感謝している。企業はトップ・アスリートの明日を築く存在であり、チームジャパンの一員だ。皆さまと共

に、国民にスポーツの豊かさと感動を伝えたい」と挨拶をした。

続いて、日本パラリンピック委員会の高橋秀文副委員長が「パラリンピックのアスリートは、一昨年8月からアスナビに参加し、すでに14社15人が採用された。JOCと企業の皆さまに感謝したい」と述べるとともに、「障がい者は、残された機能を最大限に活かして限界に挑んでいる。企業が障がい者

アスリートを採用すれば、そのチャレンジする姿から勇気を与えられ、社員の一体化につながるはずだ。さらに企業においても多様性を認め合い『共生社会を実現』することが重要な課題となっている。アスリートのみならず障がい者に活躍の場を与えることで、誰もがそれぞれの個性を活かして活躍できる企業が実現する。ぜひ障がい者を仲間に加えてほしい」と要望した。



竹田 恒和 氏
日本オリンピック委員会 会長



高橋 秀文 氏
日本パラリンピック委員会 副委員長

アスナビとは

アスナビは、企業と現役トップ・アスリートをマッチングする、JOCの就職支援制度である。経済同友会はアスナビ設立当初から協力し、2010年に第1回説明会を開催した。本会での開催は、今年3月で6回目となり、多くのトップ・アスリートの就職を支援した。アスナビではトップ・アスリートと企業のWin-Winの関係をつくることを目指している。

トップ・アスリート支援についてのお問い合わせ先
JOC キャリアアカデミー

■ e-mail : career@joc.or.jp

■ TEL: 03-5963-0354

※電話受付時間は平日の午前10時から午後6時まで

■選手就職概況 (2016.4.20時点)

就職実績 75社103人

(夏季競技選手53人、冬季競技選手35人、
パラリンピックを目指す選手15人)

雇用形態 正社員63人 契約社員40人

給与水準 同年代の社員に準ずる

競技活動費の選手負担 年間50万～400万円程度

配属部署 人事、総務、広報、営業、マーケティングなど

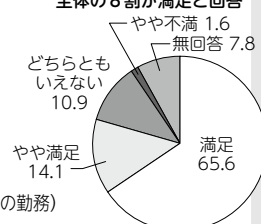
勤務 競技活動を優先(大会・合宿・練習を除き、週1～2回の勤務)

引退後の雇用継続

選手との相談により、適宜判断(雇用継続が前提ではない)

今後の目標 2016年150人 2019年300人

アスナビ採用企業の満足度
全体の8割が満足と回答



アスナビ NEXT始動

JOCは現役を引退した選手の就職支援制度「アスナビNEXT」を新設する。今後、秋をめどに企業説明会や各競技の強化指定選手に、セカンドキャリアについての意識調査も実施する予定。

アスナビ創業期を語る

プロジェクトリーダーでもある八田茂氏を司会に、アスナビ設立当初から協力してきた岡野貞彦常務理事をはじめ、関係者によるパネル・ディスカッションが開かれた。この5年を振り返る。

司 会		
八田 茂氏	日本オリンピック委員会	キャリアアカデミー事業ディレクター
パネリスト		
原田 尚幸氏	和光大学 経済経営学部 教授	
荒木田裕子氏	日本バレーボール協会 強化事業本部 強化本部長 (モントリオールオリンピック 女子バレーボール 金メダリスト)	
荻原 健司氏	北野建設 スキー部 GM(アルペールビル、リレハンメルオリンピック ノルディック複合団体 金メダリスト)	
岡野 貞彦	経済同友会 常務理事	

企業のアスリート採用の意義に気づき、説明会を提案

八田：荒木田さんはアスナビ創業時の担当理事、岡野さんは経済団体の代表、原田さんはアスナビ命名者、荻原さんはアスリートの先輩として、創業時からかかわってこられました。当時の話をお聞かせください。

荒木田：アスナビ創業の4年以上前から、JOCの国際競技力向上に関するプロジェクトで、企業とアスリートがWin-Winの関係をつくるための討議を重ねましたが、なかなか具体策が出てきませんでした。そこで企業の皆さんがアスリートの採用に関してどのように考えているのか、生の声を聞きたいと考えるようになり、当時のバレーボール協会会長の紹介で経済同友会の岡野さんに会いました。そこから風穴が開いて、アスナビ創業につながったわけです。

岡野：荒木田さんにお会いしたのをきっ

かけに、スポーツ界のさまざまな方の話を聞き、企業がアスリートを採用することの意義に気づきました。そこで、「議論をするだけでなく、思い切って説明会を開催してみてもどうか」と提案したのです。そして2010年10月に第1回目の説明会開催となりました。説明会では、オリンピックに出場する選手でさえ、全員が恵まれた環境にあるわけではないこと、採用費用はそれほど高額でないことなどを丁寧に説明した結果、少しずつ採用実績が増えていきました。

原田：スポーツとビジネスには共通する要素が多く、選手と企業が良好な関係をつくることができなかつたかと感じていたとき、アスナビがスタートしました。当初は「トップ・アスリートのための就職支援ナビゲーション」という長い名称だったので、「明日のスポーツ界と社会を担うトップ・アスリート」というところから「アスナビ」の名称を考案しました。



岡野 貞彦
経済同友会 常務理事

荻原：私も皆さんと同じJOCのゴールドプラン委員会委員として、議論に参加してきました。当初選手は、アスナビのプレゼンテーションで、事前に用意した台本をガチガチに緊張しながら読んでいましたが、回を重ねるごとに、台本に頼らずに自分の言葉でアピールできるようになり、人間としてもアスリートとしても大きく成長したと感じます。説明会を通じて企業の関

採用企業の声

キッコーマン 全日本空輸

キッコーマン執行役員人事部長の松崎毅氏は、「競泳の上田春佳選手とカヌーの竹下百合子選手を採用した結果、社内の一体感醸成などで大きな効果があった。現役引退後も自社の戦力として活躍している」と述べた。また、全日本空輸取締役執行役員の國分裕之氏は、「これまでもアスリートを採用してきたが、昨年7月に初のパラリンピアンとして競泳の津川拓也選手を採用した。グループ会社に勤務し、礼儀正しさ、真面目な姿勢、頑張る姿などが職場に好影響を与えている」と述べた。



松崎 毅氏
キッコーマン
執行役員人事部長



國分 裕之氏
全日本空輸
取締役執行役員



心の高さを実感し、手応えを感じるようになりました。

企業トップの意思決定が重要な意味を持つ

八田：アスナビが軌道に乗った最大の要因は何だと思われますか。

岡野：アスナビでは、企業のトップの意思決定が重要な意味を持ちます。トップが強い意思で採用を決断すれば、その効用についても正しくフィードバックされます。社員である選手がオリンピックやパラリンピックに出場することで競技を身近に感じられるようになり、選手の応援を通じて社員の一体感が醸成されるなど、企業にとってもプラスになります。そのことが、広く理解されるようになってきたのではないのでしょうか。

原田：アスリートの採用が進まない中で、企業にヒアリングをしてみたところ、

ろ、アスリートの採用にはコストや環境面で大きな負担になるという思い込みがあり、正しい情報が伝わっていないことが分かりました。アス

ナビでは、そうした現実とのギャップを埋める努力をするとともに、採用企業がリアリティを持って自社の経験を語ったことで、採用実績が増えていったのだと思います。

荻原：昨年5月には長野市でアスナビ説明会が開催されました。これをきっかけに、今度は長野県独自のアスナビ長野県版を開催することが決定しました。地方のアスリートを支えることの重要性が、多くの人々に共有されるようになったと感じます。

競技力だけでなく人間力を磨く指導を

八田：今後のアスナビに対する期待、要望をお聞かせください。

岡野：人間力のあるアスリートが入社することで、社内の一体感の醸成やアスリートのたゆまぬ努力に対する敬意などが生まれ、それによって企業とア

スリート双方のWin-Winの関係が築けます。競技団体や指導者の方々には、競技力だけでなく一人の人間としての力を磨くような指導を今まで以上に心掛けていただきたいと思います。

荒木田：アスナビの果たす役割はますます大きいと感じます。アスナビの関係者の皆さんには、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向かって、日本のスポーツ界の未来と一緒に切り開いていただきたいと思います。アスナビはアスリートのセカンドキャリアまでサポートする点で、世界的にも誇れるプログラムだと思います。

原田：世界を目指すトップ・アスリートは、ビジネスパーソンとしても優秀であるというのが私の思いです。ただ競技で活躍するだけでなく、人間力を持ったアスリートがビジネスパーソンとしてどんな活躍ができるのか、あるいは他の社員との間にどんなシナジーを生み出すのか、そうしたことに注目していきたいと思っています。

荻原：日本のスポーツやオリンピック・パラリンピックに対して、第三者ではなく当事者として応援していただきたいと思っています。企業や社会が一体となってアスリートを支えることができるように、私も努力していきたいと思っています。

就職アスリートの座談会

上田春佳氏は「現役時代は会社の応援がパワーになった。今は正社員として勤務し、やりがいを感じている」、桜井美馬氏は「ソチ・オリンピックに社員の方が応援に来てくれて心強かった。今は人事部で採用の仕事をしており、会社に貢献したいと考えている」と心境を語った。また、現役の横尾千里選手は「会社の応援が大きな力になっている。これからも強くなるために練習に邁進して、ぜひ結果を出したい」、宇城元選手は「経理マンとして仕事をしながら練習を続け、多くの障がい者にスポーツの素晴らしさを伝えていきたい」と今後の抱負を述べた。



宇城 元 選手



横尾 千里 選手



上田 春佳 氏



桜井 美馬 氏

【引退選手】 上田 春佳 氏(キックマン)水泳・競泳～ロンドン銅メダル
桜井 美馬 氏(東海東京証券)スケート・ショートトラック～バンクーバー・ソチ出場
【現役選手】 横尾 千里 選手(全日本空輸)女子7人制ラグビー
宇城 元 選手(順天堂大学)パラ・パワーリフティング～アテネ・ロンドン出場